

## 働きながら受講+放送大学で学位取得

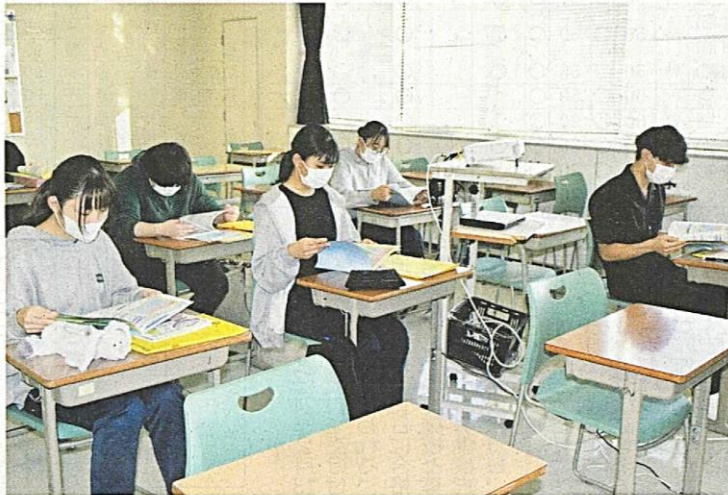
# 今年も、卵、5人 Wスクール挑戦

### 「可能性広がる」意欲

## 弘前市医師会看護専門学校

地域医療を支える看護師らを輩出する弘前市医師会看護専門学校(澤田美彦校長)。専修学校である同校は学位授与がないため、卒業生が4年制大学の看護師に引け目を感じずに働いてほしいとの思いから2015年4月、同校に在籍しながら放送

大学で学位を取得できるダブルスクール制度を導入。23年3月までに32人が学位を取得し、さまざまな場で活躍している。学生にとっては働きながら日中や夜間に講義を受け、その他に放送大学で学ぶ「三刀流」になるため容易ではないが、今年も看護師の卵5人が挑戦を決め、意欲を燃やしている。(石田紅子)



同校は2年間の准看護学科と3年間(夜間定時制)のクールは准看護学科1年の

10月に放送大学に入学して規定の単位を取得すると、看護学科の卒業と同時に放送大学を卒業でき、学士(教養)が授与される制度。放送大学の授業料は医師会が半額を負担している。近年は全国的に准看護師の養成数が減少し、4年制の看護学校が増加。大規模な病院は准看護師を募集していなかったり、より専門的な知識が求められる専門看護師や認定看護師のニーズが高まっているという。こうした現状の中で「卒業生が働く上で悔しい思いをしないよう、将来の可能性を広げてほしい」(澤田校長)として、学生にダブルスクールへの挑戦を勧めている。近年は学生数が減っているため、より良い教育環境を整備して、やる気のある学生を迎えたいとの思いもある。

6月末に開かれたダブルスクールの説明会には准看護学科1年生15人が出席した。うち5人が挑戦することを決意。介護職に就いていたが、看護師の知識が欲しいと入学した葛西慧さん(27)は「大鵬町」は「1人だと心が折れるかもしれないが、一緒に学ぶ仲間がいるので続けられそう」とし、一学校や保健所など、看護師はいろんな場所にいる。これからは学ぶ過程で自分の可能性を見つけていくのが楽しみ」とやる気をみなぎらせる。

ダブルスクール制度があることで同校を選んだ工藤珠奈さん(18)は中泊町出身で「経済的に親に負担をかけたくなかったし、自分の努力次第で学士が取れるなら」と理由を説明。「福祉施設で働く看護師になって、青森に貢献したい」と語り、5年後に看護師として働く夢に向かって走りだす。